

市史跡 長尾寺跡

伊吹山西四ヶ寺のひとつで、伊吹山頂から北西に派生した尾根の先端にあり、姉川の段丘上に位置する大久保集落の背後に坊跡群が展開しています。

創建当初は法相宗で、寺伝によると、白雉2年（651）に慈照尊者が開山したといいます。その後、伊吹山寺を構成する中心寺院となります。

文和年間（1352頃）、長尾寺を再興した深宥は、姉川渓谷を阻む巨岩を碎いて水流を良くし、耕地を広げて住民の利益を図ったといわれています。

永正年間（1504～21）、兵火で堂宇が焼失しますが、再建され49坊を数えました。その後、次第に衰退したようで、現在では惣持寺が唯一法燈を守っています。

長尾寺の遺構は、南面する本堂（旧毘沙門堂）を中心に、60ヵ所を超える坊跡群が、扇型に展開するもので、弥高寺などと共に通する平面プランが見られます。中心部の標高は約240～325mで、かつては、背後のさらに高い位置に寺坊が広がっていたと伝えられています。墓地からは、中世に属す瀬戸・常滑・渥美焼などの蔵骨器が出土しています。



歴代住職の墓地



長尾寺本堂跡

遺跡の頂点に位置する旧毘沙門堂と權現堂がある削平地は、地元で「ホンドウ」と呼ばれています。南北約27m×東西約49mを計り、北と西側は、土壘状の尾根で囲まれています。山手には、「隠れ池」があり、かつては水をたたえていました。



毘沙門堂



後ろ谷墓地出土遺物

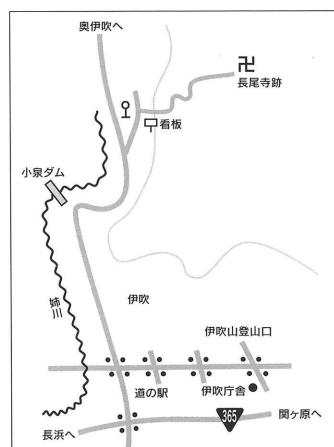


県指定文化財／天部形立像



歴代住職墓地

本堂跡の一段下の坊跡にあります（表の写真）。江戸期のものを中心、中興の祖「深宥上人」の墓石も並びます。「南墓地」「後ろ谷墓地」でも多くの石造物を見ることができます。この他、「車堂跡」や「鐘楼跡」などの地名がたくさん伝承されています。



長尾寺跡へのアクセス

JR近江長岡駅下車。湖国バス曲谷行きで「大久保」下車。徒歩約10分。

市史跡 長尾寺跡

指定年月日 平成4年9月1日
所在地 滋賀県米原市大久保

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成19年度 市内遺跡保存活用事業